

天童市矢野目の特別養護老人ホーム明幸園（桜井嘉宏施設長）が展開している二つのカフェがにぎわっている。認知症の人や家族が集う認知症カフェ「Mカフェ」と、

高齢者の居場所づくりにと開設した「コミュニティカフェ（コミカフェ）」。来月16日に東京で行われる全国社会福祉協議会のセミナーで、担当者が事例発表を行う。

天童の特養・明幸園居場所に

二つのカフェ、どうぞ

来月、全国セミナーで事例発表

「一人でいるより、みんなでおしゃべりすっべ」長門加代子事務局員と、コミカフェはおととし12月から隔週日曜の午前10時〜午後1時に開設。当初は30人程度の参加だったが、口コミで広がり、最近では50人ほどだ。子どもの姿も増え、

そば打ちを復活する矢野日直地区連合会の梅澤悦也会長（75）の周りを約60人が取り囲む。今月30日のコミカフェ新年イベント。希望者が水回し、延ばし、打ちを体験する場面も。石臼ひきの粉、村山市榎石の名水を使ったこだわりのそばで、連合会の8人が100食分を調理。打ちたてをみんな味わった。梅津会長は「参加者の喜ぶ顔が見られて何より」と満足げだ。

そば打ちを復活する矢野日直地区連合会の梅澤悦也会長（75）の周りを約60人が取り囲む。今月30日のコミカフェ新年イベント。希望者が水回し、延ばし、打ちを体験する場面も。石臼ひきの粉、村山市榎石の名水を使ったこだわりのそばで、連合会の8人が100食分を調理。打ちたてをみんな味わった。梅津会長は「参加者の喜ぶ顔が見られて何より」と満足げだ。

世代間交流の場になっている。Mカフェは昨年4月、市



コミカフェの新年イベントではひきたて、打ちたて、ゆでたてのそばが大好評だった。＝天童市・明幸園

内で初めてオープンした認知症カフェで、毎月1回、日曜の午後1〜3時に開かれる。認知症の人だけでなく住民らが気軽に集まるサロンとして知られるようになった。認知症の研究者、当事者を迎えたセミナーを昨年開催したところ、いずれも150人以上の参加があった。

二つのカフェとも申し込みに不要。利用料は50円でドリンク飲み放題。日曜の昼下がりに和気あいあいとした雰囲気がある。長門事務局長は「地元の人こそでない人もまずはふらり来てみて」と呼び掛けている。問い合わせは明幸園0233-(0)3333-3071。